

平成 16 年 2 月の解説

【2月の週間天気予報から】——発達した低気圧に伴う寒冷前線通過の時期——

2月の予報で特に注目したいのは22日から23日にかけての天気です。この日低気圧が日本海で急速に発達し、低気圧から南西に延びる顕著な寒冷前線の影響で、関東甲信地方では22日の日中は晴れて強い南風が吹きましたが、夜になって雨が降り始め、日界をまたいで約5時間続きました。

数値予報モデルによる天気図では、23日夜の低気圧の中心位置と発達の程度が、サハリン中部から千島列島中部までの広い範囲で、計算日ごとにばらついたため、悪天の広がりを見極めるのが難しい予想でした。ただ、北側の寒気と南側の暖気とのコントラストが強いことに注目して、本州の広い範囲で天気を崩す可能性が大きいと判断し、6日前から、甲信地方では、22日から23日にかけて、関東地方では23日に、降水ありと予報しました。

実況では、降水開始のタイミングが予報より若干早かったため、関東地方では22日の「降水なし予報」が外れてしまいましたが、寒気と暖気のコントラストが強い、発達中の低気圧による降水は、かなり前から予報できる場合が多い事例です。なお、3日以上先の予報では、半日より細かい降水開始のタイミングがずれることがありますので、明日、明後日の予報で確認されるようお願いします。

【2月の天候状況及び検証結果】

上旬は冬型の気圧配置となり寒気が東日本以西に入る日が多く、中旬から下旬にかけては概ね数日の周期で天気が変化しました。14日には日本海を低気圧が発達しながら通過して多くの地方で春一番の便りが届きました。また21日から22日には低気圧が発達しながら日本付近を通り大荒れの天気になりました。

このような天候状況の中で、予報期間平均の「降水の有無」の適中率は、全国平均で例年に比べて6ポイント良い76%で、特に関東甲信、近畿、九州北部、九州南部、沖縄の各地方では8ポイント以上良い結果でした。

2月の全般的な気温の状況は、全国で平年を上回り、特に、北日本、東日本、西日本の一部では2℃以上上回ったところがありました。

こうした中、全国平均の最高・最低気温の予報誤差は、予報期間平均でそれぞれ例年よりやや悪い2.8℃及び2.5℃となりました。

【4月の天候の特徴】

4月の天候の特徴は、周期的に天気が変わりやすく、移動性高気圧に覆われる日と低気圧により悪天になる日が周期的に現れます。

3月頃から5月頃まで低気圧が日本海側を発達して通過する際にはフェーン現象が起こり林野火災が発生しやすく、逆に移動性高気圧に覆われたときは遅霜に注意が必要です。また高気圧が北に偏った気圧配置となりますと、本州南岸に前線が停滞し菜種梅雨と呼ばれる長雨になることもあります。なお、4月における週間天気予報の「降水の有無」の適中率（予報期間平均）は例年平均（1992年～2003年平均）で約67%です。

【週間天気予報の利用に際して】

週間予報の精度向上に向け、数値予報モデルの改良や予測手法の改善を一層続け、予報精度のさらなる向上を目指していますが、予報期間後半の予報ほど精度が落ちますので、週間天気予報を利用される場合には、発表時に付加しています信頼度を参考にさせていただくとともに、できるだけ最新の天気予報をご利用ください。